

詳細シート（令和4年度行政評価）

資料1

事業コード	事業名	事業の概要	インプット（事務事業に必要な行政資源）							アウトプット		アウトカム （事業成果を測るKPIがある場合はその状況。ない場合は「-」）		
			事業費 （千円）	国	北海道	市債	交付税 措置（%）	その他	一般財源	人工 （R3年度）	R3年度は何をどれだけしたか （利用者数・件数等）			
08 23 01	鳥獣対策事業	自然との共生及び生活環境の保全を図るため、ヒグマやカラス等に在来動物について必要な措置を行う。 <R3の主な内容> 1 ヒグマの出没対策 6419千円 2 繁殖期のカラス威嚇行為対策 837千円	R2決算	2,224	0	269	0		1,955	0	5	0	ヒグマ通報対応（誤報含む）162件 ヒグマ猟友会出動（延べ）192名 ヒグマ捕獲3頭 カラス捕獲62羽	-
			R3当初予算	2,560	0	425	0		2,135	0				
			R3決算見込	7,289	0	716	0		1,363	5,210				
			R4当初予算	8,040	0	566	0		0	7,474				

開始時期	実施根拠	関連する計画等	行政・民間の類似事業・サービス	改善・課題解決の参考になる事例
令和4年度	旭川市ヒグマ対策協議会設置要項	北海道ヒグマ管理計画	札幌市：ヒグマ調査等をNPO法人に委託	NPO法人EnVision（札幌市委託事業者，調査・研究等）

1次評価（所管部局）			
行財政改革の視点	課題	改善・対策の方向性	見込まれる効果
① デジタル化・DX ② アウトソーシング ③ 業務の効率化 ④ 収入・財源の確保 ⑤ 事業費の抑制 ⑥ 連携・協働の推進 ⑦ 職員能力・組織力の向上 ⑧ その他	ヒグマ対策について，関係機関との連携強化や現在職員が行っている一部の業務の外部委託化など。	関係機関で構成するヒグマ対策協議会を実施し，連携強化を図っている。また，庁内連絡会議を開催し，庁内の連携強化を図っている。	対策協議会を通じてヒグマの専門家から専門的・技術的指導を受け，市内のヒグマの生態調査などを行うことで，市街地や農地等へのヒグマの出没を防ぐ効率的な対策を検討する。 調査や対策（センサーカメラ管理など）を専門知識・技術を有する事業者へ外部委託することで，より効果的なヒグマ対策が期待できる。

外部評価（行財政改革推進委員会）	2次評価（行政評価検討会議）

(参考) 事務事業の「総合計画」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」「公約」上の位置づけ

事業コード	事業名	事業の概要	インプット(事務事業に必要な行政資源)							アウトプット		アウトカム (事業成果を測るKPIがある場合はその状況)
			事業費 (千円)	国	北海道	市債	交付税 措置(%)	その他	一般財源	人工 (R3年度)	R3年度は何をどれだけしたか (利用者数・件数等)	
08 23 01	鳥獣対策事業	自然との共生及び生活環境の保全を図るため、ヒグマやカラス等に在来動物について必要な措置を行う。 <R3の主な内容> 1 ヒグマの出没対策 6419千円 2 繁殖期のカラス威嚇行為対策 837千円										
			R2決算	2,224	0	269	0	1,955	0	5	0	ヒグマ通報対応(誤報含む) 162件 ヒグマ猟友会出動(延べ) 192名 ヒグマ捕獲3頭 カラス捕獲62羽
			R3当初予算	2,560	0	425	0	2,135	0			
			R3決算見込	7,289	0	716	0	1,363	5,210			
R4当初予算	8,040	0	566	0	0	7,474						

目指す都市像の実現に向けて

(事業のアウトカムが総合計画の施策推進に貢献)

8-2-3 安全な市民の暮らしの確保

(施策「暮らしやすい都市環境の充実」の一部)

展開施策

(事業の目的) 安全な市民の暮らしを確保するため、大気や水などの環境監視体制の充実を図るほか、既存建築物等の耐震化や長
(政策の手段) 寿命化、アスベスト対策、空家等の適正管理を進めます。

施策のアウトカム (評価指標≒事業の中間アウトカム)	単 位	基準値	実績		達成率	目標値 R5
			R2	R3		
建築物の耐震化率	%	87.7	87.7	87.9	92.5%	95
崩壊・損壊等の危険性のある空き家の数	棟	34	35	47	117.5%	40
吹付アスベスト除去等要対策棟数	棟	20	20	20	200.0%	10
車や工場などの騒音や振動について良好と感じている市民の割合	%	47.3	47.3	48.9	92.3%	53
公園や遊び場の整備状況が良いと感じている市民の割合	%	28.9	28.9	30.8	80.2%	38.4
自ら居住する住宅の住み心地が悪いと感じている市民の割合	%	11.6	11.6	8.1	69.8%	11.6
自然共生社会の形成に不満を感じている割合	%	13.2	13.2	9.2		13.2未満

(施策のアウトカムは将来ビジョン推進に貢献)

将来
ビジョン

(基本政策)

四季を通じて暮らしやすい快適な都市の構築

- 社会資本が良好に機能し、安全・安心な市民生活や社会活動が営まれています。
- まちづくりの担い手が力を発揮し、雪対策や魅力ある景観づくりなど、四季を通じて快適に暮らせる住環境が形成されています。



基本政策のアウトカム (成果指標≒事業の最終アウトカム)	単 位	基準値	実績		進捗	目標値 R5
			R2	R3		
快適に生活できる環境にあると感じている市民の割合	%	38.6	39.4	38.5	↘	45.5
心地良い景観だと感じている市民の割合	%	37.4	36.2	39.5	↗	46
環境基準達成度	項目	11	13	12	↗	14

人口減少の抑制に向けて

(事業のアウトカムが総合戦略の施策推進に貢献)

施策 (まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策≒人口減少抑制の観点の事業の目的)

施策のアウトカム (総合戦略のKPI≒事業の中間アウトカム)	単 位	基準値	実績		達成率	目標値 R6
			R元	R2		

(施策のアウトカムが将来ビジョン推進に貢献)

将来ビジョン (総合戦略の基本目標)

総合戦略のアウトカム (総合戦略数値目標≒事業の最終アウトカム)	目標値 R6

公約実現に向けて

市長公約

73 自然との共生と生物多様性の保全、旭山動物園の国立化を目指す

